

本園の教育目標 附属こども園の理念・使命・目的に基づき、就学までに次のような子どもを育成することを目標として教育・保育を行う

- | | |
|------------------------------|--------------------|
| (1) 恵まれた自然環境の中で、いきいきと遊ぶ子ども | (2) すなおに自分を表現する子ども |
| (3) 人とのかかわりの中で思いやりや親しみをもつ子ども | (4) 心豊かで、創造性のある子ども |
| (5) 遊びを工夫し、進んで行動する子ども | |

令和元年度重点目標（事業計画）に対する学校（自己）評価 ※カッコ内は昨年度の評価 [対象：全教職員55名、回答数55名、回答率100%]

自己評価総括のランクは、A B Cの3段階とし、次頁以降の「自己評価」で2/3以上A評価を「A」ランク、2/3以上AまたはB評価を「B」ランク、それ以外を「C」ランクとする。

重点目標（事業計画）に対する自己評価総括

	評価の観点	評価	成果及び課題
1	教育・保育内容の改革と尚絅らしさの追求	B (B)	①幼児教育では環境を通して遊びながら実感的に学ぶことを尊重します。生活環境や遊びの素材として最高なものは「自然」だと言われています。自然は変化に富み創意工夫の心や好奇心・探求心等を誘うからです。「尚絅らしさ」とは、子どもの発育にふさわしい自然の風情に近い園庭を創り続け、活用し、環境の構成（教育的な意図）を図り、子どもの心身の発達を助長しているところです。本園の教育・保育の最大の特長はここにあると考えます。 ②今年度は、食育活動は成果を感じたものの、環境整備、特別支援教育、短期大学部との連携の満足度が低かったのでB評価となりました。
2	園児の確保	A (A)	①園児の確保については、少子化とはいえ、近隣自治体は5歳未満児が増加傾向にあり苦労は少なく、抽選制は継続し当日発表としたことで他園に流れることを防ぐことができました。しかし、年度末の転勤等に伴う園児の出入りは多く思い通りにならないこともあります。本園の教育・保育のさらなる充実と、特長を丁寧に発信していくことが基本だと考えています。 ②特別な支援を必要とする園児の数が増えており、園児の安全性を重視するには教職員数が課題となります。
3	子育て支援の充実	A (A)	①1号認定こどもと2・3号認定こどもの保護者ではニーズも評価も異なるので、今後は、バランスと調和を考慮し話し合いながら進める必要を感じます。 ②在園児保護者への支援は「誕生会」「おしゃべり広場」「親と子の集い」などが好評で、地域保護者への支援は「子育て支援室」を中心に園見学やイベント、短期大学部との連携、随時子育て相談会等が充実し好評でした。
4	教育・保育の指導力向上	B (B)	①幼児一人一人に応じた指導に努力してきましたが、保育者自身がさらに「教師力」を向上させたいという要望が強くB評価となりました。今後は、短期大学部幼児教育学科を含めた内外の研修を充実させ、実践的な指導力の向上を図っていくつもりです。
5	地域連携の拡充	A (A)	①地域、世代間、小中学校、地元自治体教委との連携は十分であると思われます。 ②療育施設に通う子どもたちが増え、交流・連携・学びを推進しています。

1 学校（自己）評価

令和元年度

尚絅大学短期大学部附属こども園

学校評価

『評価基準』 A；十分達成（85%以上） B；概ね達成（70%以上） C；やや不十分（50%以上） D；不十分（50%未満）

		評価の観点	具体的な目標・施策	評価	成果及び課題
I 教育・保育内容の改革と尚絅らしさの追求	1 豊かな自然環境を生かした特色ある園づくり	(1)自然環境の整備	①園南側の環境整備	B	①保育者、SB運転手が協力し、業者を入れ、園南側だけでなく全体の安全かつ適切な環境の整備に努めている。安全面からの更なる予算投入（宮繕修理、山砂の補充等）が必要である。 ①新設した保育棟園庭側の砂場は活用されている。今後、樹木の名称プレートの整備を行う。
		(2)特別な配慮を必要とする園児への施設設備の充実	①カウンセリングまたは、クールダウンをするための部屋増設 ②ICT等の視覚教材の充実	B	①部屋の中に小さなシェルターや独特な遊具等で対応した。タイムスケジュールの絵表示を発展させて写真表示に切り替えることで園児の困り感の軽減に少し役立った。一人一人の特性に合わせた支援を試行錯誤中である。 ②大型テレビの視聴やオンライン画像の活用を行っている。
	2 教育・保育内容の充実	(1)教育・保育内容の改善	①年間行事や教育・保育計画の見直し、実践と次年度への改善	B	①行事は1号と2号の保護者のニーズの違いに応じてバランスを考えて行ってきた。 ①幼児棟と保育棟でそれぞれの「年間保育指導計画」の枠組みを決め作成している。次年度の研究テーマとしてさらに充実させていく。
		(2)大学・短期大学部及び外部専門機関との連携強化	①幼児教育学科及び総合生活学科との連携時期の共通理解 ②熊本大学及び熊本大学教育学部付属幼稚園との連携強化	B	①「うま味」の研究対象となった。運動能力検査の研究対象となり、その結果を次年度の教育・保育に生かしていく。 ①短期大学部子育て支援センターの講師が、就園を前にした保護者への子育て相談や楽しい活動等を行った。 ②熊本大学教育学部付属幼稚園の研究発表会に参加。研究内容の復講を行った。県外の研究会にも十分に参加できる旅費を確保したい。
		(3)主体的に自然を体験する学びの推進	①大学キャンパス内の林を活用し、学びの課程を意識した教育・保育活動の展開	A	①季節や子どもの発達段階に合わせて、森遊び、昆虫探し、栗拾い、収穫、親子森の探検等を行っており、他の園では実施できない貴重な体験の場となっている。保育者自身の体験研修が必要である。
	3 生きる力を育む食育活動の推進	(1)園児が主体的に関わる栽培と収穫活動	①園児が積極的に栽培、手入れ、収穫に関わる場と時間の確保 ②ゲストティーチャーの積極的活用	A	①年間計画に沿って、年齢や発達段階に応じて充実した活動を行っている。 ②農業や野遊び等に詳しい囁託の運転手から学ぶことが多かった。
		(2)給食指導と食育活動が一体となった食育計画の作成	①管理栄養士との連携強化と給食会議の活性化	A	①充実した給食指導を実践しており、給食だより等での啓発や、アレルギーに対する配慮も行っている。 ①給食会議も開催し、反省と今後の計画を話し合ってきた。
		(3)食育活動を中心としたカリキュラムマネジメントの作成	①食育計画、給食献立、保育計画の連携強化とその発信	A	①給食を含めた食育計画を作成し充実した活動を行ってきた。今後は、保護者への啓発の面を充実させていく。

『評価基準』 A；十分達成（85%以上） B；概ね達成（70%以上） C；やや不十分（50%以上） D；不十分（50%未満）

		評価の観点	具体的な目標・施策	評価	成果及び課題
Ⅱ 園児の確保	1 園児募集に関する方法と広報活動の改善	(1)園児募集の方法の検討と実施	①抽選制及び入園優先枠の拡充の検討	A	①抽選制を実施。在園児弟妹枠を設けて優先。願書提出は定員を上回るが、その後の保護者の転勤・転居等により、増減が読めない課題がある。 ①また、2号認定こどもは町が入園者を決めるために保護者の第一希望が叶わないという問題点もあり要望している。
		(2)多様な広報活動の実施	①ポスター、パンフレット、保護者プレゼン映像等の専門業者活用 ②保護者のSNS等の活用及びマスコミとの連携強化	A	①入園希望者説明会ではフォトムービーのプレゼンが好評だった。日頃の園からの連絡やお便り、「こども園のしおり」等を見やすく改善することで、保護者のみなさまの園理解を促してきた。 ②HPの「こども園からのお知らせ」の発信にも努めた。希望者の園見学は随時行っている。ポスターに使用する良い写真の撮影が課題である。
		(3)保護者への説明会・見学会の強化	①入園説明会・見学会での園の特色をPRするためのプロモーションビデオの作成 ②スクールバス運行とバスコース・バス停の検討	A	①自作のプレゼンが有効だった。さらに、日々の子どもの活動の写真を拡大し園内掲示している。 ①園見学会は「子育て支援室」で173日実施、参加乳幼児数は2,129名だった。参加者へのこども園教育・保育の紹介及び園見学を実施することがいいPRとなった。利用者には、季節に応じて十分満足いただける活動を行っている。 ②スクールバスは、保護者のニーズに合わせてコースやバス停を年度ごとに変更している。バス停は地域の方のご理解とご協力に支えられている。バス運行は安全第一を徹底し、安全運行のための研修や訓練、整備等を行っている。
		(4)幼児教育無償化への対応	①菊陽町との連携強化及び預かり保育増についての検討	A	①8月に菊陽町と無償化に係る連絡会議を実施。その後、保護者に無償化に関する周知を図った。事務的に煩雑になったが、事務室がまとまって切り抜けている。 ①預り保育は保育者の数に応じて可能な限り受け入れている。

1 学校（自己）評価

令和元年度

尚絅大学短期大学部附属こども園

学校評価

『評価基準』 A；十分達成（85%以上） B；概ね達成（70%以上） C；やや不十分（50%以上） D；不十分（50%未満）

	評価の観点	具体的な目標・施策	評価	成果及び課題	
Ⅲ 子育て支援の充実	1 在園児保護者への子育て支援	(1)講演会・子育て相談・援助の実施	①園長による教育講演及び定期的な教育相談の実施 ②個人面談の実施や保護者同士の連携を図る場の設定 ③スクールカウンセラーの確保及び周知	A	①園長と短期大学部教員で年齢に応じた講演を行った。 ②在園児の保護者には、随時個人面談を行っているが、計画的に学級懇談や個人面談を実施している。 ②誕生会後の「おしゃべり広場」では、保護者同士が親くなる体験型活動を行っている。 ③対象になる保護者は開業医に繋ぐことで対応してきた。比較的軽い場合は主幹・副園長・園長が対応している。
		(2)延長保育・預かり保育の充実	①延長保育の申し込みシステムの改善と職員の連携強化	B	①延長保育や預かり保育は、安全の確保を第一に考えて実施している。預かりの保育の人数を増やしてほしいという意見には今後の検討が必要である。
		(3)特別支援教育の充実	①定期的な発達相談会の実施 ②町や市の特別支援教育連絡会や研修会への全員の参加 ③要支援児に対する個別の指導計画の作成	A	①定期的に個別の希望に応じた発達相談会を実施し、保護者の気持ちに寄り添っている。時には行政や療育施設に協力をあおいでいる。 ②行政主催の研修会や連絡会に参加している。大きな課題なので、随時、一人一人に応じた報告・相談・打ち合わせ・対応を行っている。療育施設とも連携し情報交換が密に行われ、療育から学ぶことを取り入れている。 ③個別の支援計画・教育支援計画・フェイスシートを作成している。専門家を招聘し学びを生かしている。
		(4)健康管理の実施	①迅速な健康診断の結果の連絡、対応把握 ②園内の衛生検査や衛生管理に関する研修と健康管理の徹底	A	①学校保健安全法・施行規則に則り、健康診断やその報告、未診断者への通知等、園医と連携して確実に実施している。 ②日々の環境衛生検査はもちろん、ノロウイルス対策の処理方法及びAED使用方法については全職員で実施。
	2 地域保護者への子育て支援	(1)子育て支援室の利活用	①利用者のニーズの把握と利用システムの改善	A	①子育て支援室「どんぐりルームころころ」が活動している。地域保護者のニーズは「随時子育て相談、楽しいイベント、講話等」であり、NPOの活動等も取り入れて楽しい活動を展開し好評を博している。本園の効果的紹介にもなっている。 ①受け入れ方法や人数については試行錯誤している。
		(2)尚絅子育て研究センターとの連携	①尚絅子育て研究センター職員による最新の子育て情報の提供	B	①短期大学部子育て研究センター教員と地域の保育者と本園の教職員が計画的に研修会を行っている。乳児保育研修会にも自主的に参加している。
		(3)保育体験の実施	①親子遊び体験及び2歳児、満3歳児クラスでの保育参加体験の実施	A	①子育て支援室担当が窓口になり、主幹教諭・担任・短期大学部講師が親子遊び体験等を行った。
		(4)子育て相談、外部専門機関の紹介	①子育て支援室担当職員及びこども園職員による子育て相談や情報提供の実施 ②大学・短期大学部講師陣による子育て相談会の実施と外部専門機関の紹介	A	①子育て支援室担当や主幹教諭他保育者が、情報提供や相談活動を行った。 ①短期大学部教員、外部依頼講師が情報提供や相談活動を行った。

1 学校（自己）評価

令和元年度 尚絅大学短期大学部附属こども園 学校評価

『評価基準』 A；十分達成（85%以上） B；概ね達成（70%以上） C；やや不十分（50%以上） D；不十分（50%未満）

		評価の観点	具体的な目標・施策	評価	成果及び課題
IV 教育・保育の指導力向上	1 園内研修の充実	(1)新教育・保育要領に対応した研究保育の実施	①主体的、共同的な活動を意識した教育・保育とその評価に関する共通理解	B	①「認定こども園法」の目的・目標改訂等の方針等について共通理解した。 ①県の教育課程研究集会での発表者2名、公開保育者1名。 ①今後は、保育棟の保育士の研修の充実を図りたい。
		(2)特別支援教育・人権教育に関する研修の強化	①園内支援委員会の定期的開催及びケース会議の活用 ②園内研修及び支援に関わる特別支援教育士との連携・活用	A	①園内支援委員会及びケース会議で共通理解を図った。 ①療育施設や専門家・実践家と連携し、療育を学び、それぞれの幼児の教育・保育に生かした。
		(3)子どもの主体性を育む環境会議の実施	①ICTを活用した環境会議の実施	A	①環境会議では、現在の環境の課題を出し合い、今後の環境構成の内容と分担等を決め、全教職員が共通理解した。
	2 研修会・研究会等の積極的参加	(1)学園・大学・短期大学関連の研修会への参加	①尚絅学園、大学・短期大学部の主催する研修会へ1回以上の参加	B	①短期大学部の公開シンポジウムには14名が参加。幼児教育研修会やキャリアアップ研修会に積極的に参加している。 ①県外へも研修に出向き教師力を高めたいという意欲があり、低い評価になった。
		(2)特別支援教育・人権教育の研修会への参加	①県、市、町及び全幼研、全保研等主催の特別支援教育等への1人1回の参加	B	①特別支援教育等多くの研修に参加している。しかしながら、保育者たちはさらにライフステージに応じた力を付けなくてはという気持ちが高いため評価は低かった。保育者たちはさらに多くの研修の機会を希望しているが、補欠要員の不足や時間の調整が難しい。
		(3)実技研修会・その他の研修会等への参加	①自然を活用し、体験活動を重視した教育・保育の研修参加 ②研修内容の共有のための報告会の実施	A	①リズム体操や走力アップの実技研修等を計画的に実施した。実技研修は即保育に役に立つ研修なので多く参加している。 ②参加後の文書報告と園内研修での口頭報告を行い、知見の共有を図っている。
	3 短期大学部との合同研修及び研究会の開催	(1)短期大学部との定期的、計画的な連携	①園内研修への計画的な参加、協力依頼 ②運動能力テストの実施と保育への活用	B	①短期大学部教員を講師に園内研修会を実施。保育の基本を学んだり、新しい幼児教育の研究に参画したりしたが、評価項目の中では一番低い74.6%だった。 ②運動能力テストは2学期に実施。3学期に測定結果を保護者配付。全体的な傾向を検討し、次年度の教育・保育に生かす。
		(2)実習生指導計画案の内容検討	①幼児教育学科職員と幼児棟職員の連携強化	A	①短期大学部と実習の指導内容や記録の面等で打ち合わせを行ってきた。今後とも学生の実習成果がさらに上がるような内容の検討を重ね、本園の大きな特長として充実させていく。

1 学校（自己）評価

令和元年度 尚絅大学短期大学部附属こども園 学校評価

『評価基準』 A；十分達成（85%以上） B；概ね達成（70%以上） C；やや不十分（50%以上） D；不十分（50%未満）

		評価の観点	具体的な目標・施策	評価	成果及び課題
V 地域連携の 拡充	1 地域交流 の充実	(1)地域老人会との連携強化	①年間行事の参加依頼に加え、日常の保育活動へのボランティア参加に向けての模索	A	①地域有志の式典参加、もちつき参加、運動会招待、新春の集い（昔遊び等）参加等において交流を図った。地域老人会のみなさまには、夏の暑い日に、ボランティアで園庭の草刈りを2回していただいた。
		(2)世代間交流の推進	①行事参加を増やす取組と「尚絅祖父母の会」の設立に向けた取組	A	①夏の夜の森の探検や新春の集いには祖父母のみなさまにもおいでいただき、園児たちとの交流を行った。園児もご高齢の方々も楽しい時間を過ごすことができた。近隣中学校や尚絅高校生の職場体験学習にも協力した。 ①会の設立はできなかった。
	2 円滑な幼小連携の 推進	(1)職員による学校訪問と小学校教員に向けての公開保育の実施	①小学校と継続的段階的に検討実施 ②交流協力校への情報発信の強化	A	①武蔵ヶ丘中学校区の幼・保、小中連携会議に参加し、共通の啓発活動を実施。 ②保育者たちは小学校の運動会などにも顔を出し、卒園児や保護者たちとの信頼関係を深めている。 ②卒園児は20を超える小学校に入学するので、特に交流を行なう小学校を武蔵ヶ丘北小(約30%が進学)に絞った。
		(1)就学に向けた連絡会の実施	①菊陽町、合志市、熊本市の教育委員会との連携強化	A	①菊陽町主催の「子ども子育て会議」「特別支援連携協議会」「町立保育所運営検討委員会」に委員として参加してきた。 ①武蔵ヶ丘中学校校区が連携して推進する事業にも積極的に参加し、保護者への啓発を行った。 ①就学支援に係る連絡会を計画的に実施。

I 乳児期の保育のねらいである「3つの発達」に照らして、わが子はその方向に育っていると思われるか、他子育て支援等

- 1 調査時期 令和元年12月
 2 調査対象 乳児ひよこ組7名、回答数7名、回答率100%
 3 評価基準
 (1) 1～3：評価の観点（3つの発達）
 4.とても育っていると思う 3.だいたい育っていると思う 2.あまり育っていないと思う 1.まったく育っていないと思う
 (2) 4～5：本園の子育て支援事業、及び経営や教育・保育等の経営全般への評価
 4.とても満足している 3.だいたい満足している 2.あまり満足していない 1.まったく満足していない

(1) 評価の観点（3つの発達）		4	3	2	1
1	身体的発達 （健やかに伸び伸びと育つ） <input type="checkbox"/> 保護者や保育者等の愛情豊かな受容のもとで、生理的・心理的欲求を満たし、心地よく生活をしはじめている <input type="checkbox"/> はう、立つ、歩くなど、十分に体を動かしてはじめている <input type="checkbox"/> 授乳や離乳をすすめていく中で、様々な食品に少しずつ慣れ食べることを楽しみはじめている <input type="checkbox"/> 生活のリズムに応じて、安全な環境の下で十分に午睡をしはじめている <input type="checkbox"/> おむつ交換や衣服の着脱などを通じて、清潔になることの心地よさを感じはじめている	100	0	0	0
2	社会的発達 （身近な人と気持ちが通じ合う） <input type="checkbox"/> 保護者や保育者等の応答的な触れ合いや言葉掛けによって、欲求が満たされ安定感をもって過ごしてはじめている <input type="checkbox"/> 保護者や保育者等に体の動きや表情、発声、喃語等を優しく受け止めてもらいやり取りを楽しみはじめている <input type="checkbox"/> 自分の身近な人の存在に気付き、親しみの気持ちを表わしてはじめている <input type="checkbox"/> 保護者や保育者等の語り掛けや発声への応答を通じて、言葉の理解や発語の意欲が育ちはじめている <input type="checkbox"/> 保護者や保育者等の温かく、受容的な関わりを通じて、自分を肯定する気持ちが芽生えはじめている	85.7	14.3	0	0
3	精神的発達 （身近なものに関わり、感性が育つ） <input type="checkbox"/> 身近な生活用具、玩具や絵本など、身の回りのものに対する興味や好奇心をもちはじめている <input type="checkbox"/> 様々なものに触れ、音、形、色、手触りなどに気付き、感覚の働きが豊かになりはじめている <input type="checkbox"/> 保護者や保育者等と一緒に、様々な色彩や形のものや絵本などを見はじめている <input type="checkbox"/> 玩具や身の回りのものを、つまむ、つかむ、たたく、引っ張るなど手や指を使って遊びはじめている <input type="checkbox"/> 保護者や保育者等のあやし遊びに機嫌よく応じはじめている <input type="checkbox"/> 歌やリズムに合わせて手足や体を動かして楽しみはじめている	100	0	0	0
(2) 本園の子育て支援事業、及び経営や教育・保育等の経営全般への評価		4	3	2	1
4	子育て支援事業への満足度 私は、尚綱こども園で行われている「子育て支援事業」全般に満足している。	71.4	28.6	0	0
5	経営、教育・保育全般への満足度 私は、園の教育・保育のあり方、安全面、環境面（施設・遊具・教材・絵本等）、給食、情報提供等の経営全般に満足している。	100	0	0	0

II 幼児教育のねらいである「5つの領域」に照らして、わが子はその方向に育っていると思われるか、他子育て支援等

- 1 調査時期 令和元年12月
 2 調査対象 1歳りす組・2歳うさぎ組、園児数28名、回答数13名、回答率46.4%
 3 評価基準
 (1) 1～5：評価の観点（5つの領域）
 4.とても育っていると思う 3.だいたい育っていると思う 2.あまり育っていないと思う 1.まったく育っていないと思う
 (2) 6～7：本園の子育て支援事業、及び経営や教育・保育等の経営全般への評価
 4.とても満足している 3.だいたい満足している 2.あまり満足していない 1.まったく満足していない

(1) 評価の観点（5つの領域）		4	3	2	1
1	健康 <input type="checkbox"/> 先生や友達との生活リズムに慣れはじめています <input type="checkbox"/> 体をいっぱい使って遊ぼうとしている <input type="checkbox"/> 多くの食品に慣れ、食事を楽しもうとしている <input type="checkbox"/> 手を洗うなど清潔の習慣がしだいに身に付きはじめています <input type="checkbox"/> 衣類の着脱を自分でしようとしている <input type="checkbox"/> 自分から便器で排せつしようとしている	69.2	30.8	0	0
2	人間関係 <input type="checkbox"/> 先生や友達と一緒に心地よく暮らしはじめています <input type="checkbox"/> 先生や友達と適切な行動や言葉で関わろうとしている <input type="checkbox"/> 園生活にきまりがあることや、その大切さに気付きはじめています <input type="checkbox"/> みなし遊び（真似）やごっこ遊びを楽しもうとしている	69.2	30.8	0	0
3	環境 <input type="checkbox"/> いろいろな感覚を働かせて身近な環境に興味や関心、好奇心をもちはじめています <input type="checkbox"/> おもちゃ、絵本、園庭の遊具を使った遊びを楽しもうとしている <input type="checkbox"/> 身の回りにある物の形や色、大きさや量などの性質や仕組みに興味をもちはじめています <input type="checkbox"/> 自分の物と人の物の区別に、しだいに気付きはじめています <input type="checkbox"/> 自分が過ごすのにふさわしい場所や居場所を見つけて遊ぼうとしている <input type="checkbox"/> 身近な生き物に気付き、親しみをもちはじめています <input type="checkbox"/> 季節の行事などに興味や関心をもちはじめています	69.2	30.8	0	0
4	言葉 <input type="checkbox"/> 自分の欲求や気持ちを自分なりの言葉で伝えようとしている <input type="checkbox"/> 生活に必要な言葉を聞き分けはじめています <input type="checkbox"/> 日常の様々なあいさつをしたり応じたりしはじめています <input type="checkbox"/> 絵本や物語等に親しみをもち、まねをしたりして遊ぼうとしている <input type="checkbox"/> 生活や遊びの中で、興味のあることや経験したことなどを自分なりに表現しようとしている	69.2	23.1	7.7	0
5	表現 <input type="checkbox"/> 水、砂、土、紙、年度など様々な素材に触れて楽しもうとしている <input type="checkbox"/> 音楽、リズムやそれに合わせた体の動きを楽しもうとしている <input type="checkbox"/> 生活の中で、様々な音、形、色、手触り、動き、味、香りなどを感じて楽しもうとしている <input type="checkbox"/> 歌を歌ったり、簡単な手遊びや全身を使う遊びを楽しもうとしている <input type="checkbox"/> 生活や遊びの中で、興味のあることや経験したことなどを自分なりに表現しようとしている	69.2	30.8	0	0
(2) 本園の子育て支援事業、及び経営や教育・保育等の経営全般への評価		4	3	2	1
6	子育て支援事業への満足度 私は、尚絅こども園で行われている「子育て支援事業」全般に満足している。	38.5	61.5	0	0
7	経営、教育・保育全般への満足度 私は、園の教育・保育のあり方、安全面、環境面（施設・遊具・教材・絵本等）、給食、情報提供等の経営全般に満足している。	69.2	30.8	0	0

Ⅲ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10「10の姿」に照らして、わが子（園児）がその方向に育っていると思われるか？

- 1 調査時期 令和元年12月
 2 調査対象 3歳以上の園児数273名、回答数201名、回答率73.6%、全教職員55名、回答数55名、回答率100%
 3 評価基準 4. とても育っていると思う 3. だいたい育っていると思う 2. あまり育っていないと思う 1. まったく育っていないと思う

評価の観点（10の姿）			保護者				教職員			
			4	3	2	1	4	3	2	1
1	健康な心と体	健康で安全な生活を意識しはじめ、十分に体を動かして喜んで遊ぶ方向に育っている	75.1	23.4	1.5	0	25.5	70.9	3.6	0
2	自立心	主体的・積極的に環境と関わり楽しみ、達成感や自信をもつ方向に育っている	50.7	45.3	4.0	0	25.5	69.1	5.4	0
3	協同性	言葉で友達と関わり、共通の目的に向かう活動を喜び合い成長する方向に育っている	50.2	48.3	1.5	0	12.7	83.6	3.7	0
4	道徳性・規範意識の芽生え	友達との関わりや生活の中で、善悪を判断し、相手の立場を理解する方向に育っている	36.8	58.7	4.5	0	9.1	81.8	9.1	0
5	社会生活との関わり	友達や身近な人々へ目を向け、人を大切にしたり人の役に立つことを喜びと感じたりする方向に育っている	49.8	44.3	5.9	0	23.6	69.1	7.3	0
6	思考力の芽生え	身近な環境に感じ・気づき・考え、予想したり、周りの友達との関わりの中で工夫したり考え直したりする方向に育っている	41.3	49.8	8.9	0	18.2	74.5	7.3	0
7	自然との関わり・生命尊重	身近な自然物に関心をもち楽しみ、感動したり命をかけたがえのないものと感じる方向に育っている	55.7	39.8	4.5	0	43.6	49.1	7.3	0
8	数量や図形、標識や文字などへの興味・感覚	遊びや生活の中の数量や図形、絵本等で出会う文字等に興味関心をもつ方向に育っている	54.2	35.8	10.0	0	10.9	72.7	16.4	0
9	言葉による伝え合い	経験したことを言葉で伝え合うとともに、相手の話をよく聞く方向に育っている	45.8	49.8	4.4	0	14.5	72.7	12.8	0
10	豊かな感性と表現	身近なことに感動したり、友達の表現に感じたり、自分で表現することを楽しむ方向に育っている	52.2	45.3	2.5	0	25.5	72.7	1.8	0

学校関係者評価に対する総括

	評価の観点	評価	成果と課題
I	「3つの発達」	A	<ol style="list-style-type: none"> 1 保護者のみなさまは、わが子は「3つの発達」をしていると評価している。 2 保護者のみなさまは、4月より12月までのわが子の身体的な発達について、具体的な5つの視点から見て、とてもよく育っていると評価している。広い園庭や恵まれた施設、森や芝生広場等において健やかに伸び伸びと育つ環境を用意できていることは保育者たちにとっても嬉しいことである。 3 社会的な発達については、「ゆるやかな担任制保育」を展開し、親の次に親しみを持つ保育者との気持ちがより通じ合うように工夫していることが功を奏していると評価している。 4 精神的発達においては、豊富な遊具や保育者自作遊具等に恵まれて順調な発達をしていると評価している。 5 アレルギー症状が見られる乳児については保護者や医療機関と連携して進めていると評価している。
II	「5つの領域」	A	<ol style="list-style-type: none"> 1 1歳児・2歳児の保護者のみなさまは、わが子は「5つの領域」において、育ちが見られると評価している。 2 乳児期の評価と比べると、少し下がり、差がついてくることは容易に理解できる。 3 保護者のみなさまは、4月より12月までのわが子の「5つの領域」とも、約70%がとても育っていると評価している。だいたい育っていると思われる保護者も加えると100%に近い。 4 「言葉」の領域において、「あまり育っていない」とお考えの保護者が7.7%おられ、個体差が分かりやすくなっている。保育者たちは、愛情をもって応答的・受容的な保育を実践している。
III	「10の姿」	A	<ol style="list-style-type: none"> 1 3歳児から年長組までの保護者のみなさまは、わが子は「10の姿」に照らして、おおまかには順調に育っていると評価している。 2 乳児期や1・2歳児の評価と比べると、さらに下がり、発達に差がついてくるのがわかる。 3 保護者のみなさまの評価が高いのが「健康な心と体」で、家庭でも園でも最も大切にしていることである。 4 反対に評価が低いのは「思考力の芽生え」や「数量や図形、標識や文字などへの興味・感覚」だった。これは、教職員の評価が低いのも同じ結果が出ていた。 5 4については、さっそく職員研修を開き、12月以降の集会や学級での活動等に重点的に実践をしてきた。 6 保護者の評価より教職員の評価の方が全体的に低い。これは、保育者の方が集団の中の園児の素の姿を見ていることと、さらに良くなって欲しいという願いや更なる実践をしなくてはという使命感も含まれていると考えている。

- 1 評価委員会開催日時 令和元年1月31日（木）13：30～14：30
- 2 場所 尚絅こども園会議室、園見学も含む
- 3 調査対象 学校評価委員7名（地元区長、祖父母代表、PTA会長、学園関係者4名）出席率100% ※園関係者の出席は5名
- 4 評価基準
 評価の観点1～3： 4達成していると思う 3だいたい達成していると思う 2あまり達成していないと思う 1達成していないと思う
 評価の観点4～9： 4充実していると思う 3だいたい充実していると思う 2あまり充実していないと思う 1充実していないと思う

評価の観点	4	3	2	1
1 自然環境を生かした質の高い教育	100	0	0	0
2 愛情豊かな保育	57.1	42.9	0	0
3 安心の子育て支援（在園児保護者・地域保護者）	57.1	42.9	0	0
4 管理面（安全面、園児確保、教員の確保、広報、コンプライアンス等）	57.1	42.9	0	0
5 労働面（やりがい、人間関係、給与・待遇、勤務時間等）	28.6	57.1	14.3	0
6 教員としてのライフステージに応じた指導力の向上	100	0	0	0
7 特別支援教育、人権教育、安全教育、食農教育等	28.6	71.4	0	0
8 大学・短大との連携、教育実習の充実	28.6	71.4	0	0
9 保護者(杉の子会)、地域、行政、療育施設、近隣小中学校等との連携	71.4	28.6	0	0

評価委員の意見・質問及びこども園からの回答

<p>○保護者の目から見ていつもきめ細やかに保育をしていただいていると感じます。安心・信頼してお任せできます。ですが、保護者間で「先生方は大変そうだね」「先生の数が足りていなさそうだね」とよく話題にあがっています。いろいろな制約があるのだと思いますが、ぜひ、先生方の数がさらに増えていくことを望みます。 →教員数は定められた基準は満たしていません。ご指摘を謙虚に受け止め、働き方改革を図って参ります。</p>	<p>○先生方の研修会への参加がスムーズに行われるといいですね。先生方の働き方の満足感は、子ども・園児の指導に大いに感化されると思います。その点は素晴らしいと思いました。 →教職員の研修意欲に応えていきます。</p>	<p>○アンケートの回収方法について改善を図ってください。 →方法や時期等、回答率の向上に努力します。</p>	<p>○保育園の保護者と幼稚園の保護者の両方が不満を感じないイベントの在り方を検討してください。 →PTAと協議しご意見を尊重しつつ、園行事の幼保のバランスを考えて実施するように努めます。</p>	<p>○人の一生に大きな影響を及ぼす時期の重要な教育を担う先生方がよく働いておられる印象を強く持ちました。給与・待遇や勤務時間の面で報いられますよう希望いたします。 →給与・待遇の向上に努め、勤務時間が適正になるよう、仕事の内容や量を改善していきます。</p>	<p>○先生方の研修意欲の高さに感心いたしました。先生方の意欲の高さが日頃の素晴らしい保育実践に反映されていると思います。 →意欲をさらに向上させるために、園外研修の参加や園内研修の充実に努めます。</p>	<p>○非常に充実したこども園だと思います。より一層励んでいただきませうようお願いいたします。 →ご指摘やアンケート結果を生かして今後も改善を続けます。</p>
---	--	--	--	--	---	---

学校評価の総括

- 保護者も保育者も、園児は大まかに目標方向に育っていると評価されている。
- 保護者も第三者評価委員の方々も、園経営はほぼ充実していると評価されている。
- 保育者は、ライフステージに応じた教師力を付けたいと望んでいる。
- 今後は、教職員全員が、普段の園務や教育・保育の一つ一つを丁寧に子どもと自分の成長にしていく取組みがすべての基盤となると考えている。
- 今後のさらなる課題として、以下のことが必要であると考えている。

- 1 尚絅らしい教育・保育を展開しさらなる充実。自然の風情を残した環境のさらなる活用・創造・構成。
- 2 年間保育計画の見直し、作成。保護者の相反するニーズを調和させた行事の見直し。
- 3 教職員のライフステージに合わせた資質の向上。園内研修・園外研修の充実、保育者自身の目標達成に向けての実践。
- 4 食育の充実。
- 5 短期大学部との連携。研修の充実。
- 6 園児の確保。園児募集の方法の見直し。
- 7 延長保育・預り保育のあり方検討、充実。
- 8 特別な支援が必要な園児への安全かつ有効な教育・保育のあり方、保護者への対応、療育施設との連携。
- 9 本園の大きな特長の一つとして、教育実習の在り方を高めること。
- 10 施設設備等の安全性の向上。2005年に建築してから15年目、メンテナンス。
- 11 学校評価アンケートの保護者回答率の向上。実施時期と内容の検討。
- 12 保育者の確保